

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	12-003	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Alcohol drinking and all cancer mortality: a meta-analysis. 飲酒と全癌死亡についてのメタ解析		
執筆者		
Jin M, Cai S, Guo J, Zhu Y, Li M, Yu Y, Zhang S, Chen K.		
掲載誌		
Ann Oncol. 2012 Oct 26. [Epub ahead of print]		
キーワード		
飲酒、全癌死亡、メタ解析、用量依存		
要旨		
目的： 飲酒と全癌死亡についての疫学的研究結果に一致を見ない。これまでこの問題にメタ解析がなされていない。		
方法： PubMed を用いて 2012 年 4 月以前に発表された適切な英語論文を探索した。カテゴリーおよび用量依存のメタ解析を行い、飲酒が全癌死亡に及ぼす影響を調べた。不均一性の原因をメタ回帰分析と層別解析で見出した。感受性および累積的メタ解析も行った。		
結果： 18 の独立したコホート研究が選択基準を満たした。非飲酒者/機会飲酒者に比べて少量飲酒者のリスク比は 0.91 [95%信頼区間(CI) 0.89-0.94]、中等量飲酒者は 1.02 (95% CI 0.99-1.06)、および大量飲酒者は 1.31 (95% CI 1.23-1.39) であった。飲酒中止者のリスクは現在飲酒者より高かった (1.32, 95% CI 1.15-1.50 対 1.06, 95% CI 0.98-1.16)。男性では飲酒量と全癌死亡に J 型関連があったが、女性ではこれは認められなかった。		
結論： 本メタ解析は大量飲酒者(≥50 g/日)の健康リスクと少量飲酒者(≤12.5 g/日)の健康メリットを確認した。女性における大量飲酒者に関して標本数が多く、良好に計画された前向き疫学研究が将来必要とされる。		